

# 園だより



第 6 号

2019年8月30日 ばんけい幼稚園

## 主体的に、そして自信に

米森 久仁子

2学期が始まり、子どもたちは園生活の流れや生活習慣(着脱・手洗い・うがい・持ち物の整理など)のことを思い出しながら遊びや活動に取り組んでいます。

9月の運動会に向けて“運動会ごっこ”が本格的に始まり、子どもたちから運動会の話が聞かれるようになってきました。特に年長児は、今までの経験から運動会の楽しさや達成感を味わってきたことや、憧れの用具係とアナウンス係になり運動会の進行にも関わることでやる気が伝わってきます。

運動会のような活動、好きな遊び、生活習慣、と自分で取り組んでいくことはいろいろあります。そこで、「自分は〇が好きだ・〇をやってみよう・〇ができそうだ」という前向きな気持ちを育てていくためには、家庭や園生活の中で一人一人が主体的に遊びや活動ができることが必要です。そこにはまわりの大人の温かく肯定的な眼差しのもとで安心して行っている経験の積み重ねも必要です。しかし、遊びの中では、「危ないからやめなさい」と禁止してしまうことや生活の中では、「次は〇をしなさい」「早くしなさい」「まだできないの」などの言葉を時間に追われてつい口にしてしまいます。このような指示や否定的な言葉は、子どもの自尊心や意欲を育てることには繋がりにくいようです。時間や気持ちに少し余裕のある時には、一緒にやり方や手順を考えて出来るようにしてあげる、自分で考えることができるように「どうしたいの?」「どう思ったの?」「どっちにしたいの?」「次は何をするの?」と優しく質問してから一緒に解決していくこともいいと思います。そして、“自分でやってみて出来たこと・やってみようとしている過程・気づいたこと・自分の思ったことをお話ししてくれたこと”など褒めてあげてください。

遊びや活動の中で、やってみたいという気持ちを抱き、主体的に自分で考えて取り組むことで“楽しかった・面白かった・出来た”という達成感、“またしてみたい・試してみよう・今度は〇に挑戦してみよう”という意欲をもてるような経験を積み重ねていけるようにと思います。そして、子ども自ら“やってみたい”“〇はうまくできなかったから、今度は△で試してみよう”と主体的に遊んでいける環境を整えていくことが大切だと感じます。